



- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさとを拓く子ども



評価は「おおむね良好」

2月18日(火)
第3回学校運営協議会

「第3回学校運営協議会」において、学校運営協議会委員の方々から今年度の学校評価をしていただき、来年度の方向性について協議しました。各項目について、いただいた評価とご意見の一部を紹介します。

【学習指導】 評価：A

- ・若い教員が多くなる中で、授業力はもちろんであるが、子どもたちに人生経験を語れるような教師の育成も図ってほしい。

【生徒指導】 評価：B

- ・先生と子どものよりよい信頼関係づくりが、生徒指導の要であるので、建前ではなく本音で子どもと話せる関係を築いてほしい。

【ふるさと・キャリア教育】 評価：A

- ・子どもたちのアンケート結果から、地域に貢献したいという肯定的な回答が多い。地域から学ぶだけでなく、地域に元気を届ける活動があればよい。

いただいたご意見を基に、改善策をまとめました。今年度の学校評価シートはこの後、ホームページに掲載しますので、そちらもご覧ください。

授業力の向上を目指して

若者授業研究会
2月14日(金)



本校と峰浜小学校の20代の若手教員が、お互いの授業を見合い、よさや課題を見付け授業力の向上を図る研究会を行いました。

本校から2名、峰浜小からは3名が参加し、1・2校時は峰浜小で、4・5校時は本校で授業を見合いました。

普段、なかなかじっくり見ることのできない同世代の授業を参観し、お互いに参考になったようです。今後も機会があれば、このような交流を進めていきたいと考えています。

ひな人形を飾りました。

2月20日(木)、昼休みに6年生と女性職員が協力して、音楽室にひな人形を飾りました。

最近は大きなひな壇を飾る家庭も少なくなっていると言います。季節の風物詩であるひな人形により、音楽室が華やかになりました。

ひな人形は子どもたちの健やかな成長と幸せを願って、3月3日まで飾られます。



2月14日(金)、八峰中学校の吹奏楽部員が来校し、児童保育の児童を対象にランチルームで演奏会を開きました。名訪れたのは、吹奏楽部員4名(総部員数は5名)です。精鋭で「ミッキーマウスマーチ」や「勇気100%」など、5曲を披露しました。子どもたちも楽しそうに聴き入っていました。八峰中学校吹奏楽部の皆さん、ありがとうございました。

今週の一枚

授業の様子から



【1年】書写

フェルトペンの持ち方に気を付けて、お手本を参考にしながら、「ふじ山」と「なかよし」を清書しました。きれいに書けましたね。



【2年】国語

友達からもらった手紙に返事を書くために、どんな内容にしたらよいのかを全体で確認しています。その後、手紙の下書きをしました。



【3年】理科

磁石や電球などを使い、これまでの授業で学んだことを生かして、ゲームやおもちゃを作っています。とても楽しそうでした。



【4年】総合的な学習の時間

「みんなにやさしい社会」を考えることをねらいとして、高齢者の特徴についてまとめていました。次時は高齢者疑似体験をする予定です。



【5年】学活

「6年生ありがとう集会」の練習をしています。いよいよ来週木曜日に迫り、5年生の表情は真剣そのものです。次期リーダーの皆さん、がんばってください。



【6年】学活

昨年度の卒業式の動画を見ながら、卒業証書のもらい方の確認をしています。約3週間後の自分たちの卒業式をイメージしていました。



つぎ 伝統を受け継ぐ

先日、美郷町の友人から「六郷のカマクラ」の最終日に行われる「竹打ち」の動画が送られてきました。昨年は雪不足で中止となり、2年ぶりに行われたようですが、最近も参加者も減っているようで、ここにも少子高齢化の影響が垣間見えます。

そういえば、ユネスコの無形文化遺産に登録されている男鹿の「なまはげ」も、家々を回るなまはげを実施する集落は、後継者不足で現在ではほぼ半減しているといえます。中には観光客や外国人等の受け入れを始めた地区もあるそうです。

また、「泣く子はいねがあ」と威勢よく家に入ったものの、迎えるのは高齢者だけということも珍しくはないとのこと。

このように、少子高齢化の影響は深刻ですが、問題はそれだけではないようです。

近年は、災いや厄を払い、怠け心を戒めるため、家の中や玄関先で大声を出したり、戸をたたいたりする行為を受け入れられない家や、プライバシー意識やもてなしの支度の大変さなどで、なまはげの招き入れを拒否する家もあるといえます。さらには、児童虐待だと批判する観光客もいるとか。約200年にもわたり継承されてきた「なまはげ」も、時代の変化の波にのまれていく状況です。

その土地の信仰を大切にする行事はたくさんあります。それらはその地域にとって特別なものであり、そこに住む人たちはプライドをもって継承しています。

八峰町の白瀑神社の例大祭もそうであるはずですが、しかし、今の時代、伝統を繋ぐためには行事の意義を守りつつ、何を残し、何を捨てるかを考えなければ存続できなくなってきました。

メディアでは様々な小正月行事を勇壮に、または華やかに伝えています。その裏側にある伝統を受け継ぎ、伝える難しさを知ること、違った見方ができるのではないのでしょうか。

